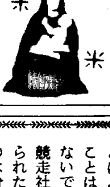
聖隷学園報

発行所
学校法人
聖隷学園
浜松市三方原3453
Tel(0534)36-5311
郵便番号433
発行責任者 長谷川了

聖句

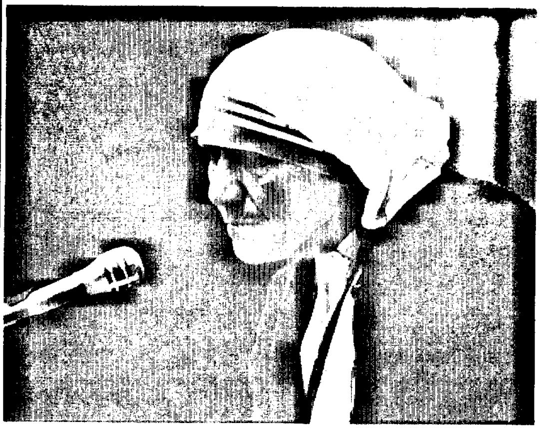
「キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう」

（コリント第二書一二・九）



マザーテレサ聖隷を訪問

於学園体育館 3500人の聴衆を前に講演



講演するマザーテレサ

マザーテレサを迎えて

理事長 長谷川 保

秋も深まった十一月二十日、現代の世界的聖者マザーテレサを聖隷集団にお迎えした。これは昨年聖隷浜松病院が議長になって浜松市に日本病院学会を開催するに当たって、約二千人の医師達が参集するので、兎角、日本の医療が本来の人間の生命の尊厳を忘れて研究本位や経済本位に堕することを憂えた中山耕作病院長が、この際マザーテレサに特別講演をして戴いて、我が国医療の第一線に働く医師に活を入れようとされたことが最初の動機となった。マザーテレサ共労者の会東京支部その他の方々の御尽力によって、この時マザーは香港まで来られたのであったが、この時は、エリザベス女王が印度に来られて、急にマザーに会いたいとの申し出があって急拠香港から印度に帰えられたために折角の計画が実現するに到らなかったのであった。

この事が動機となって、今回再び日本訪問計画に当たり、マザーも聖隷集団のホスピスその他を見たいとの御希望があって、お迎えすることが出来たのであった。

二十日午後二時十九分着こだまで浜松駅に下車されたマザーは大臣並の浜松駅長の先導で付き添いの共労者会の方々と共にパトカーの先導で、二時五十分に聖隷学園着、聖隷両病院長河野進牧師夫妻等と挨拶後直ちに体育館に、そして三千人を超す満堂の聴衆に「いのち、神のたまもの」の演題の下に約四十分に亘って講演をされた。全聴衆に大きな感動を与え、中には余りの感動に倒れて病院に運ばれる者さえ出た。講演後直ちに聖隷ホスピスに患者を一人一人見舞われ「あなた方はキリスト様と同じ十字架のお苦しみを負われています。神様のおめぐみがありますように」と手を握り頭に手を置いて祝福されたのであった。次いで自動車で大ぞらの家の重症心身障害児を更に十字の園に全部の老人達一人一人を見舞い祝福して廻られ、正に「溢れる愛」そのものであった。この間マザーの口から洩れる言葉はワンダフル、ビューティフルの連発で、ここには神の愛が溢れています。私の所はこんなに立派ではありませんが然し神の愛が溢れています。」と言われた。

米軍飛行機が待つ浜松自衛隊への自動車の中で、マザーが私に呼びかける。「長谷川先生、先生の看護短大の卒業生が何人も海外に奉仕に行って居られるそうですが、今後は、私共の支部と協力して、私共の神の愛の宣教者達の会の百八十余の支部に所属してボランティア活動をして載けませんか。海外に奉仕に行かれる時には東京支部のシスタールースに申し入れて下さい」と言う。私も直ちに「それは大変善いことです。今後私共も海外奉仕団本部をつくって、そのように致しましょう」と約束した。マザーテレサと共同で今後、聖隷の仕事が本格的に世界に奉仕することとなる。今回の最大の収穫であった。

「講演要旨は4ページに掲載します」

（マザーテレサプロフィール）

一九一〇・八 アルバニア人カトリック教徒を両親に、ユーゴスラビアで生まれる

一九二八・一二 アイルランド、ラスファルンハム修道女会「ロレットの聖母修道会」に入会、シスター・テレサとなる。修練のためインドへ派遣される

一九二九〜一九四八 カルカッタにあるセントメリー・ハイスクールで地理教育に当り、何年間か校長も勤めた

一九四八・八 ロレット修道会の修道服を脱ぎ、水色に淵どられた肩には十字架のある白いサリーを身にまとって、カルカッタの大司教の下で修道女として立つ。のち、看護の集中研修をへて、スラム街に学校を開設

一九五〇・一〇 「貧しい人々の中でも最も貧しい人たち」棄民、癩病人たちを世話するために、修道会「神の愛の宣教者会」を設立、同志修道女12名でスタート

一九五四 『死を待つ人の家』がカルカッタに完成

一九七一・一 パウロ6世から、ヨハネ23世平和賞受ける

一九七三・三 ニューデリーにて、ネール賞受ける

一九七八・四 東京に修道士のセンター開設

一九七九・三 ノーベル平和賞受ける

一九八一年現在 修道女 一九五〇人、修道士 四〇〇人、共労者 一二四〇〇〇人、「神の愛の宣教者会」は、世界30カ国に、一八五の救済の家をもつ

＝聖書のことば＝ 弱さは悪いことか

教授・牧師 西村一之

われわれはお互いに、強いことはよいことで、反対に、弱いことは悪いこと、と思ってはいないであろうか。今日のような競走社会にあっては、弱みを知られたら、つけ込まれて負けるのは分っているので、けっして弱音ははいていけないと自分に言いきかせている。社会のこの風潮は学校教育の現場にも、入込んでいる。大人も子供も強くなれ、強くなれ、と尻をたたいている。弱いことはあってはならない、ときめているようにみえる。

だから、弱さのあるがままを正直にみつめることがゆるされないでいる。したがって、外に対しては、弱さはないかの如く隠して、強がるように気を使って、いつわりの自分を生きることになる。これは虚勢であり、見栄である。やがて、必ず内側から破端をきたす。

「弱さ」は悪いことだろうか。病気はつらい。努力したにもかかわらず挫折したとき、かなしい。人々のなかで無知や未熟な自分を知ったとき、屈辱を通り越して、体中から力が抜けていく。こんなとき、自分に弱さを感じ、自信を失う。傷ついた心から立直ることは、なかなかむずかしい。しかし、「弱さ」は道徳的には悪いことではないのである。弱さをあってはならないものとして否定したり、無視してはならない。弱さの「事実」をそのままにみつめ、そこに隠れている大切なものを探り出すことができる。弱さからも学ぶことができる。

パウロはキリストの一番弟子である。そのかれはキリストを知るまで、なにごとにつけ強いことこそ正しいし、神の意志にかなっていると考えていた。かれ自身、青年時代にその点で自分を誇ることができた（ピリピ三・二―六、ガラテヤ一・一三―一四）。弱い人をみると、怠けている、意気地なし、としかみえず、ゆるすことができなかった。そのかれが自分に行き詰った。キリストを通して神の意志を知ったとき、パウロは神についても、人間についても、初めて考えちがいをしていたことを知った。知者をはずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者をはずかしめるために、この世の弱い者を選び、・・・無きに等しい者をもあえて選ぶことができる方こそ、神であることを知った（Ⅰコリント一・一八―三一）。人を強弱で評価し、優劣をきめることが「高慢」＝「罪」（ヨブ三三・一七、Ⅱコリント一二・七）であることが分って、パウロは愕然とした。かれ自身、救いは、自分の弱さをそのままにみつめるところから始まることを、初めて悟った。標題のことばは、このようにして、生まれてきた。強がりは勇気ではない、罪である。

【20周年記念事業】着々と準備すすむ

専務理事 長谷川 了

昭和六〇年四月に彦根に短大（英語科・商経科）が開学される。高校は衛生看護学科に移行して既に一〇年が過ぎ国際・進学・普通のコース制が定着した。短大高校共に大きな節目がおとづれた訳で二〇周年の記念事業と行事が広く学園の現況を正確に理解し共に将来の幻を描く機会となり聖隷教育の時代を越えて流れてきた精神を再発見し確認しつつやや閉鎖的であった学園を激変する時代と社会の要請に広く的確に積極的に答え得るように変革する機会になることを念願します。

五つの記念事業及び行事が決定され教職員、後援会、PTA、同窓会によって組織された実行委員会が企画しています。

①校舎外の教育的環境整備、旧ヴェトナム難民施設愛光寮徹去跡に広場を作り周辺を造園化し正面には約四mの青年が両手を広げて天を仰ぐブロンズ像を設置し教育施設の正門にふさわしい所に変えます。さらに校地周辺には生け垣を廻らします。

②記念誌の発行、遠州キリスト学園、准看護学園、衛生高校、普通科高校、看護短大、彦根の聖泉短大の節目となった時代の記事にさらに幻を語り合うものを併せて掲載したいと考えています。

③記念米国研修、九月十四日〜二三日の十日間でサンフランシスコ→グランドキャニオン→高校の姉妹校のあるキャマス市（ワシントン州）の旅程です。西部の最っとも気候の良い秋の大陸の雄大な自然に触れ、ホームステイによる心温まる親善交流体験は期待に答え得る意義ある楽しい旅行になると考えます。後援会員PTA会員同窓生学園職員が対象です。奮って参加してください。

④野球部の創設、聖隷高校の総定員が八一〇名に増員され男子生徒が約半数になった今、スポーツを通うして人格形成と身の鍛錬をはかることを盛んにしたいと考えます。二〇周年にふさわしいスポーツとして硬式野球を選びました。将来甲子園をめざせるようなしっかりした野球部作りをしたいと校長を中心に活発に活動をしています。早稲田実業高校、早稲田大学で活躍した監督を招へいしました。そして野球をはじめサッカーの公式試合が可能な総合グラウンドを確保するために努力しています。

⑤記念式典、過美にならない実のある式典にしたいと記念講演、功労者の表彰生徒学生による教育活動の発表等着々と準備をすすめています。

半世紀を越えて貧しい人の友となり病める人を看とり幼児精薄者障害者老人の福祉に心血を注いできた聖隷福祉事業集団の一翼を担う聖隷学園として初心に帰り伝統を受けついで聖隷色豊かな看護者助産婦ヘルパーの育成に、彦根地区に新らしい高等教育の展開にさらに難題の多い高校生に勉学スポーツ国際交流を通うして成長への学びの場とするために絶えざる試行と挑戦をしていきたい。

高校近況

野球部

甲子園に夢ふくらむ
硬式野球部創設

昭和40年12月28日の学校法人聖隷学園設立認可から二十年の月日が過ぎようとしている。二十周年記念行事には、この期に将来への飛躍、聖隷学園の教育の真髄を社会にアピールする意味がこめられている。硬式野球部創設もその一環としてスポーツ活動の振興、発展、校風刷新に一役かっていると言ってよい。去る12月4日、県高野連理事会において聖隷高校加盟が認められ県内百校めの加盟校となった。現在、グランド確保の為交渉中だが、まもなく結論が出されることになっている。夢はやはり甲子園出場だが、浜商、静高、東海大一等、並みいる強豪に肩を並べるにはしばらくの時間がかかるだろう。監督に内定している栗嶋務氏は「点を取るというより、点をやらずに勝つ野球を目指す。バッティングはある程度センスがいるが、守備は鍛えれば鍛える程固くできる」とさすがに捕手出身らしく、守りに重点を置いた指導を考えているようだ。「勝つ」という目標の下に日頃から厳しい練習がなされ、日常生活でも勉学に励み礼儀を重んじ社会に出ても規律と節度のある人間を築くこと、活気ある校風を造っていくこと等クラブ活動に課されている期待は大きい。野球部がこの様な意味で他のクラブ活動と共に刺激しあい、真に発展していく時、それは学園の飛躍に大きな力となる。野球部創設を期に夢と期待は大きく広がる。

来年度から実施

野球部創設
制服改訂

—高校教育に活気促す—

制服
清潔で明るいイメージに

高校創立以来20年ぶりに、女子制服を変えました。

生徒達の制服に対する不満・要望をとり入れ、数年前より改善の作業を進めてきました。高校のイメージは、きっと伝わることと思います。

チャコールグレーのスリーピース、胸には校章を型どったエンブレムを、ネクタイは校章の色からとったエンジのリボン、Yシャツは丸衿でギャザーを多く使い可愛らしくゆとりあるものにしました。

一流のデザイナー、東京・大阪の有名な会社が参加しての、改善作業は、かつての聖隷にはなかった、新しい展開でした。出来上ったこの制服、くどいようですが、センス・審美性・機能性などあらゆる角度からみて、自信作です。聖隷高校生として誇りをもって着れることと思います。

将来は、制服の自由化という事も考えております。生徒の自主的判断で、誰がみても気持のよい服装が校内をうめる時、指導面でも先生と生徒が、お互い理解し合いうまくいっていることを証明することでしょう。

今後は男子の制服についても改善していこうと考えています。

制服の改善、この中にはただ服装を変えるということではなく多くの意味が入っていることを、もう一度考えてみたいと思います。

新しい制服

と活気づいている学校全体のムードを上げる役目を果たしているようです。白黒ではこのシックな、そしてトータルな雰囲気がわかりにくいかも知れませんが、清潔で明るいムードは、きっと伝わることと思います。

行事紹介

9／1　始業礼拝
26・27　球技大会
10／4　体育祭
5　演劇教室
9　遠足(一・三年)
9～12　中間テスト(二年)
16～19　研修旅行(二年)
17～19　中間テスト(一・三年)
31　収穫感謝祭
11／5～10　キリスト教教育週間
20　アジア学院交歓会
12／12～14　期末テスト
12／18　球技大会
20　クリスマス礼拝
21　終業式
1／7　始業礼拝
25　企業見学会(二年)
31～2／2　卒業テスト
2／14　卒業労作
16　卒業式
19～22　入学試験
3／6～8　学年末テスト
11～15　集中労作
12～4／5　第五回米国研修旅行
20　終業礼拝
〈キリスト教教育週間講演者〉
11／5　田原米子先生(牧師夫人)
6　長沢道子先生(〃)
8　岩村昇先生(神戸大教授)
11／9　小林真先生(遠州教会牧師)
10　高梨愛子先生(浜松医大生)
※16　映画「塩狩峠」上映
〈アジア学院生来園〉
アジア・アフリカの農村指導者

収穫感謝祭風景

キャマス生来園
第三回研修生14名を迎えて

さよならパーティーであいさつするデクスター校長

昭和五十四年十月に松本校長を団長とする聖隷高校代表派遣団五名がキャマスハイスクールを訪問し、姉妹校契約を締結して五年が経ちました。その間、聖隷高校生のキャマスを中心とする短期米国研修旅行が毎年繰り返され、すでに四回、計九十名以上に及ぶ国際コース生が貴重な体験をし、ロスアンゼルスやサンフランシスコなどの研修も交え、キャマスでのホームステイを通して掛け替えのない思い出を築き上げてきました。一方、キャマスハイスクール生の日本研修も昭和五十七年より行われることとなり、今年七月二十六日から八月十二日までの訪問で第三回を迎えることとなりました。随行者七名、生徒男子四名・女子十名を迎えた今回の訪問では、昨年第二回の研修スケジュールに更に新しく富士登山が加えられ、キャマス生達は、あこがれの富士山に登り、七時間以上に及ぶ苦労の末に日の出を仰ぐという貴重な体験をすることができました。

今回の訪問団には、キャマスハイスクール校長のデクスター先生も同行し、昨年に引き続いて団長を勤めたハインズ先生には、さよならパーティで長谷川専務理事より感謝状が送られました。

浜松・細江町でのホームステイ史跡見学、産業研修に加え、東京・京都などを訪問し、八月十二日元気に帰国しました。

米国一年間研修
国際コース生四名

ワシントン州キャマスにあるキャマスハイスクールと姉妹校関係にある聖隷高校では、ここ数年に亘り活発な交流活動を行ってきました。定例化した両校からの短期研修旅行は勿論のこと、過去には一年間留学生の派遣、キャマス生長期受入れなど、五年間の短い交流期間では考えられない程の実績を築き上げてきました。

今年度は、国際コース生数名が一年間のキャマス留学を申し出、二年生四名が留学生として認められました。キャマス高校へは、濵美記宏、河合寿彦、宮本範子の三名が留学、以前キャマス高校の副校長をしておられたポートナー先生が現在校長として勤務するエルマ高校では、笠原太が勉強に励んでいます。キャマス高校は、アメリカンフィールドサービスなど、各国との交流活動が盛んな学校で、毎年、ヨーロッパの国々からも多くの留学生を迎え入れていますが、聖隷高校との姉妹校関係設立以来、日本からの留学生に対する歓迎ぶりは熱烈なものです。毎年繰り返されるホームステイを通して、異文化に触れ互いに言葉を交わすことにより培われてきた友情の成果といえます。

留学生達は、授業をはじめとして、クラブ活動、友情交換など活発な毎日を送っており、留学の成果が期待されます。

ワシントン州キャマスにあるキャマスハイスクール

献げましょう

岩村先生講演
【キリスト教教育週間】

二十二年前のネパールでは一千万人に八十人の医師しかいなかった。病気の赤ん坊を背負って六日間も歩き続けタンセンの病院にたどりついた途端、血を吐いて死んだ母親がいた。結核のため。それをきっかけに巡回診療班を組んで早期発見やBCG接種をすれば結核は防げることを説いて村々を歩いた(古い切手二百枚でBCG一人分が買える。古切手収集を始めてくれたここにいらっしゃる住吉勝也氏に感謝。二十年前にはBCGを接種すると約八〇%効いた。ところが今日ではそれほど効かなくなった。なぜか、ある地域では子供の体に蛋白質が欠乏しているからだ。僕たち日本人がそれを奪っているのだ。日本から自動車、オートバイを輸入し莫大な金を支払う。そのしわ寄せが子供たちを栄養失調にした。僕たち日本人はぜいたくをする。この現象はフィリピン、タイ、インドネシアでも同様である。

櫻井さんという方は、僕の話を聞き長い間の栄養士の修業を積んでネパールへ来た。彼女は大豆食の普及につとめ栄養失調を防ぐ努力をした。僕の娘夫婦もネパールの子供たちのために働いている。僕がそこを訪れたとき子供たちが歓迎会をしてくれた。ある子供が弁当のない貧しい子供に自分の大豆を分けてやるのを見た。平等に分配して余った一粒を貧しい子供にあげた。僕は感動してその子の家を訪ねた。両親は開拓のかたわら日間も歩き続けタンセンの病院及に努めていた。近所の人々にも大豆を分けてやるための畠を作っていた。親も子もイエスの教えに従って献げる生き方をしていた。今日から僕と君たちは腹八分にして二分をネパールの栄養失調の子供たちに献げよう。

ある時僕はフィリピンのセブ島に一人の青年を訪ねた。彼の父と姉は日本軍に殺され母は結核で死んだ。僕は広島で原爆の惨状を見たとき戦争の被害者だと思った。しかしこの島へ来て僕は加害者であることを知った。日本へ輸出するバナナ栽培彼は日本へ輸出するバナナ栽培に使う農薬のため肝臓を悪くしていた。僕たちは戦争責任とバランナ責任をどう償ったらいいのだろうか。また台風でこの島から日本へ輸出するための貯木が流出し多数の家を壊し人命を奪った。日本のオートバイを買うために森林を全部伐採した結果だ。この材木の一部は日本で紙と割り箸に加工される。僕は割り箸を使うことをやめた。割り箸十本で一本の苗木が南の島へ送れる。大好きなコーヒーをやめ千円位でくすの木一本を島へ返せる。僕は再来年の春頃フィリピンの島へ住みつく予定だ。同僚や学生のカンパしてくれた金でくすの木百本を寄贈したい。やがてすくすく育つだろう。そこで僕は君を待つ。女生徒諸君、看護婦や栄養士として奉仕する道があなたを待っている。

最後に次の言葉を諸君に送って今日の話を終る。

「人が若い日に持つ無限の可能性、君の胸に清らかに輝く光、その大小は問題ではない。それを一生持ち続け給え。こつこつと善いと信ずることを実行し給え。自分より困っている人、弱い人と共に生き給え。それが君の人生を決定する。」(文責・濵口)

講演中の岩村先生

熱心に学園で研修するアジア学院生

養成専門学校である栃木県のアジア学院から、今年も34名の研修生が聖隷高校を訪れました。国籍はガーナ、インド、フィリピンなど様々で、聖隷高校生、教職員宅にホームステイしました。11月20日には、生徒との交歓会が行われ、交流を深めました。

衛生短大 助産婦・専攻科 ヘルパー・学園

最近の短大研修会・プロジェクトチーム活動のうごき

昭和六十一年度以降六十七年度をピークとして十八才人口が急増し、その後は急減するという時代を間近に控え、五十九年六月に大学設置審議会大学設置計画分科会から「昭和六十一年度以降の高等教育の計画的整備について」という報告が公表された。また、わが国の看護教育制度については、日本看護協会から五十九年四月に「看護教育制度改正の要旨」が発表され二十一世紀に向けての看護の在り方を考えようと提案している等々、社会の変化に伴って教育の改革を求められる時代である。

本学においても数年前から、看護教育の質を高めるために種々の取り組みをして来た。

その一つは、短大夏期研修会を実施し三年になるが、「考えて行動できる看護者を育てるために」をメインテーマとして、カリキュラム・教育方法・教育環境・建学精神の具現化・二科の在り方等について現状を分析し問題点を抽出して、これを即時的・中期的・長期的課題として試行錯誤しながら改善に努めている。この研修会の詳細については、本学紀要の第六号・七号・八号を参照されたい。

次に五十八年に「二科の在り方」を検討するプロジェクトチームが発足したが、同年学園夏期研修会においても関連テーマが取り上げられまた高校にもプロジェクトが作られたことから三者合同で検討することになり、二科は存続させるが定員減も行なわざるを得ないことおよび学生募集の工夫も今後の課題とする等の結論を得たので理事長に答申した。(58・12月)

次のプロジェクトは、学園夏期研修会の結論として高校に看護進学コースを設けて短大一科と連携させ一貫した看護者育成を推進することが提案された。これの具体的な取り組みをしている。この試みは、五・六年後の短大卒業の時点でその成果が期待されまた本学が掲げている教育目的・目標を具現するための有力な方策と考える。そして聖隷学園の高校・短大の一貫教育の理念として定着することを念願するものである。

今年度の大きな課題は、冒頭のべたような社会情勢の中で、本学が将来どのような構想をもって対処したらよいかを模索しなければならない。

そのため、「短大将来構想検討会」を設け検討を開始した。前述した本学独自の諸問題の改善をしながら社会のニーズに応えるべくその方策を見出さなければならない。二科学生の確保(質・量)、二科の定員減・学科の新設・四年制大学への昇格等々について国の教育政策をふまえて考えていく必要があり、それが経済的基盤の安定にもつながるようにしなければならない。

1月には四年制大学についての勉強会を開き大勢の方々が参加した。

以上、ここ二・三年の「短大の教育を考える」うごきについて報告する。

聖隷短大の教育を考える(5)

学科長　柴田敏子

実習生の体験報告

—貴重な体験を得て—

ベッドサイドで学ぶ事の大切さを知る

I科3年　今木順子

4月から4カ月間の三段階実習を終え、今は、11月から12月にかけての看護総合実習を行っています。この実習は、二年生までの教科書のみの勉強とは異なり、患者さんを前に看護の実践をするのですから、実習から多くの事を、学ぶ事が出来ました。

実習といえば、記録物・事前学習が浮かび上がります。これらを整理するために、睡眠時間を削る事もありました。その時は苦しくても、患者さんと接する為には、患者さんを理解することや、より良い看護をする為の計画をたて、患者さんの質問に答える為にも、必要です。そこで学んだものは、自分のものとして身につき、次の看護をする時にも、役立つことを痛感し、その必要性を感じました。

また、看護する時には、対象となる人の今ある状態を、理解する事も大切だが、その人の人格を創りあげた、これまで生きてきた過程を知る事も、大切であると思いました。それは、何か一つを知ろうとする時に、大きな手がかりとなり、対象者のニードを満たす為に、大きく役立つと思えたからです。

そして看護の幅の広さや、深さも実習に出て感じる事が、多くありました。看護の定義を考えると、対象となるのは、一人の患者さんだけでなく、地域全体として、とらえなければいけないという事も、実感として知る事が、できました。

以上、あまりにも漠然としてしまいましたが、実際に学び得た事は今後看護をするうえで、おおいに役立つと確信しています。

産ぶ声

専攻科助産学特別専攻　左官美葉

「おめでとうございます。男の子よ!」今日も、分娩室には、級友の生き生きとした声が響く。徹夜での分娩介助と百名近い妊産婦の前での指導、その母親学級における企画、運営また原稿書きの連続の日々、早くも臨床実習は、三カ月を過ぎようとしている。

専攻科?耳慣れない課程に入学してから、いく度となく、「この まま勉強してゆけば、本当に助産婦になれるのだろうか?」と自問自答を繰り返す毎日だった。その私が、今、臨床の場に学生として居るのである。ここに居るのも助産婦の魅力が次第に分かってきたからだと思う。

臨床実習では、常に、無我無中である。分娩室の前では、足もすくむし、産婦さんへの声かけも次第に自分のための言葉となっていった。あの暑い夏、朝も夜もなく没頭したファントームや厳しいチェックは、何だったのかと情けなく思ったりした。しかしこの手にうける命の重さは、いつでも新鮮で感動的である。そして、あのこれは、看護婦でなく、助産婦としてこそ得られる瞬間なのだと実感する。「あなたが最初に見た人なのよ。」と、ある母さんが言ったこの言葉は、私の意欲をかきたてる。余す日々も少ないが、自分に与えられたチャンスを友との成長にしたい。

育児室において実習をうける実習生

行事紹介

〈衛生短大〉

9／22～24　第15回衛短祭
9／25　防災訓練・健康診断
26・27　球技大会
10／1　後期始業

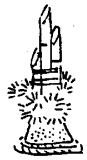
〈助産婦専攻科〉

9／22～24　第15回衛短祭
10／4～17　前期試験
12／22　クリスマス礼拝
24～1／6　冬期休業
1／31～2／6　後期試験
2／6　入学試験(一次)
3／5　助産婦国家試験
6　学内学会
7　入学試験(二次)
9　修了式

〈ヘルパー学園〉

※第十三回(春季)生
9　13　ケアスタディ発表会
14　修了式
18　入学試験
※第十四回(秋季)生
10／1　入学式
2・3　入学オリエンテーション・一泊研修
12／22　クリスマス礼拝
24～1／5　冬期休業
2／25～3／2　定期試験
3／11　12　修了式
18　入学試験
12／6　推薦入学試験
22　クリスマス礼拝
24～1／6　冬期休業
1／31～2／6　後期定期試験
2／8・9　総合試験
3／1～5　追・再試験
3　看護婦国家試験
6　学内学会
7　一般入学試験
9　卒業式

短大球技大会—バスケットボールで活躍する短大生



高校、短大の一貫教育を検討した夏期研修会

衛短祭を終えて

実行委員長
II科2年　坂口健司

衛短祭を終えて思ったことはひとつは、とにかく事故なしで無事に終ったということです。一時は、衛短祭をやるべきかどうかと真剣に考えた時もありましたが、何とか終わることができてホッとしました。

ふたつめは、実行委員長をやってはじめてわかったのですが衛短祭には、様々な人の力が結集しているということです。各企画ごとの担当者はもちろん、映画のフィルムを運ぶ人、講堂のイスの出し入れを協力してくれた人、看板を書いてくれた人等当に様々な人の力が結集して完成したのが衛短祭なんだと言う事が身にしみてわかりました。

みっつめは、衛短祭をこれからも続けてゆくべきだという事です。やる前は、別にやる必要はないのではと思いましたが、実際にやってみると、学生の力がひとつにまとまってゆくのです。ある目的に対していろいろな人の力が集まって、だんだん完成してゆく、これが大切な事だと思います。それを学生の手でやるからよけいに価値があるのだと思います。

以上みっつ、衛短祭を終えて思った事を書いてみました。最後に衛短祭にかかわってくれたすべての人にありがとうございましたと言って終りたいと思います。

聖泉短大教員紹介

英語科長
木田武佳

四国の片田舎に育ったので中学に入るまで、世界には日本語以外の言葉が話されていることを知らなかった。十三才で英語という外国語に接したのは全く未知との遭遇であった。英語に没入することが唯一の救いであり、一種の反抗であった。敗戦で反抗の目標を失ったが、日本語への回帰の切っ掛けになった。二十才代は英字新聞にいて英語を量的に書きまくって職人という気がした。一日三千語位書いていたと思う。こんなことを二、三年すると、いくら英語が好きでも英語と聞いただけでも呕吐を催すようになる。その時期を過ぎると楽になり、以後作文屋の語学教師を三十年している。

商経科長
足立忠夫

聖隷保養農園に入園させていただいたのが昭和十九年九月。当時の私は京大の戦時緊急研究のため召集を免除された大学院特別研究生。完治とはいえなかったが、京大との連絡の必要から、三方原の満開の楼を振り返りつつ飛城の浜松を経て京都に辿りついたのが二十年四月。その間の約八ケ月、恩賜館の事務室の隅りの病室で療養しながら、長谷川さんの言動を具さに観察。敗戦と同時に、私は関西学院大学法学部に就任。行政学を専攻して三十数年。その間に従来の世界中の政治学者の研究方法は根本的に間違っている、市民・公務員・学究の協働体制によるのでなければ真実の理論は生れてこないというドンキホーテ的な構想をもつようになっていたところ、それを容れてやれるかもしれないという北九州大学の誘いに乗って転任したのが満六十才の年。しかし、夢破れて六五才で停年退職。もうどこにも勤めないと決心して執筆の年金生活を送ること二年。ある人から彦根に設立予定の大学に協力してくれないかといわれて断わろうと思ったが、長谷川さんの聖隷の大学と聞いて一も二もなく承諾。しかも、長谷川さんに私の夢を語ったところ、協力しようと言われた。私は〝ある人〟の恩寵を感ぜざるをえない。切にを。

学園の現況

聖泉短大開学を来春に控えて

設立準備室長　仙沢計美

滋賀県に高等教育機関を、彦根に短大をと昭和五十五年秋、大津カトリック教会山田右神父より設置計画の相談を受け強く協力を要請された。同時に調査と検討をはじめた。五十七年秋、聖隷学園長谷川保理事長のご好意によってエキュメニカルの精神のもとに聖隷学園が教育経営の責任をもって、彦根市と滋賀県のご協力のもとに、聖隷学園聖泉短期大学の設置を決定し、昨年三月一筋の道も判らぬ彦根駅前に設立準備室を開設して一年九ヶ月、私と他三名の職員によって、まず校地の買収から準備が始まった。次から次へと予想もしないアクシデントの連続、申請のメ切りは七月末日と、五ヶ月しかない。この責任の重大さによる気のあせりか、眠れない日が続き、胃の調子が悪くなった。文部省には多い週で二・三回行った。きびしい設置基準と担当者の指導、何度か壁に突き当たった。学科変更それに伴う教員組織づくり、書類の山。申請最後の追い込みには市の幹部の方々や職員の家族までが徹夜に近い応援をしてくれた。幸い、教育の責任をとる伊藤学長はじめ、地元国立滋賀大学経済短期大学部主事出江先生他五十名の教育情熱と奉仕の精神のあつい教官と、多くの方々の協力によって一次申請が通過し、二次申請も提出し、二回にわたる現地調査も受け今、目前に認可の内示が得られるところまでこぎつけた。この経過をみて、ある人が「奇跡だ。」と笑った、事実それに近いかも知れないが、今日に至るまでの関係者の労を偲い、感謝を忘れてはならない。一方、本年六月より精力的に高校めぐりをはじめ、七・九・十・十一月と五回から六回、県内をはじめ岐阜・福井・京都の各府県の高校を訪問し、短大の教育目的、内容、方針等を力説して歩いた。丙午の年、既設短大も大巾に受験資格の評定値を下げて早くから推薦入学者を募集している。この要項類の書類が、どこの高校の進路指導室にも山積されているのが痛く目にしみる。特に関西では短大の推薦は専願でなく併願をどこの短大もやっており十一月末には殆んど切り、年内に合格者を発表するという。新設で伝統も歴史もなく、認可内示は十二月末という本学の立場、勿論、今更後退はできない。しかし、そうかと言って、広告宣伝や願書受付をして進むことも出来ない。この最悪の中にあって十一月末、県内各高校の進学指導の先生方の理解と協力を得、県内より八十名近い志願者の数をつかむことができたことは感謝である。これから先、来年三月までには、主が経営上必要な定員二〇〇名をお与え下さることを信じ、集り来る教官や学生諸君らの為によき教育環境づくりをして、地域に開かれたよろこばれる短大として初期の目的達成に全力投球をしたい。学園関係者の深い理解とご支援を切にお願いしたい。

建設中の聖泉短期大学校舎

聖泉短期大学図書館内部

マザーテレサ講演から

〝いのち・神のたまもの〟

Life, the Blessing of God

おおぞらの家で

聖書には神様が私たち人間をどれ程深く愛し尊いものとされているか書かれています。イエスキリストが世に生まれ、死なれた事はその深い愛を私たちが知る為に神様がなされた事実なのです。人間は神様の姿・イメージを基に創造されました。それは私たちがこの世に生まれ、神様の深い愛を生きる為、神様の深い愛の内にいるという大切な使命を与えられているからなのです。命は正に神様の賜物なのです。

イエス様は私たちに「私たちがお互いの為にする事、貧しい人の為にする事はどんな事でも、それは神様に対してする業になる。」と繰返し教えています。例えばこの場所で又他人の命を救い育む為、貧困に苦しむ人を助ける為なされてきた業は、神様の特別な祝福を受けるのです。飢え、渇きという事は、パンや水が無いという以上に愛し愛されることに飢え渇く事なのです。一人寂しく取り残された孤独な人、病に苦しんでいる人も愛に飢えていると言えます。着る物が無い、住む家が無いという事なども同様で、その裏には神様から与えられている尊厳が、清らかさが、精神が、肉体が、愛が失われ踏みにじられている状態があるのです。そして最も悲しむべき事は、そういう人々が社会からのけ者にされ、見放され自分は愛される価値の無い不必要な者だと思う事なのです。私たちには、これらの人々に愛の行動をなす使命が与えられているのです。この愛は家庭の中で家族が共に祈る事から育まれるのです。心の中に静けさを持ち神様に語りかけ神様からの語りかけに耳を傾ける。この対話が祈りです。祈りは信仰を深め、信仰は愛として実り、愛は奉仕として結実していきます。大切な事は、私たちがどれだけ多くの業をなし与えられるかではなく、どれだけ純粋に愛を込めて行い与えるかなのです。今の世にあってこの真の愛・命の尊さを思う時、胎児から老いた人まで、障害を持つ人も病に苦しむ人も全て神様から尊い命、賜物を与えられている事を忘れてはならないと思うのです。

「貧困と飢えのうちに生きて死ぬ世界中の仲間に、主よ、仕えることのできる人にならせて下さい。私たちの手を通して今日この人々に日々のパンを与えて下さい。私たちの理解を通して愛を、平和と喜びを与えて下さい。」

マザーテレサは日々この祈りのもとに愛の奉仕を続けられているのです。(文責・堀口)

学園行事・人事

〈学園行事〉

9／25　防災訓練
11／20　マザーテレサ聖隷事業集団訪問・講演会
24　理事・評議員会
12／27　教職員冬期研修会
28～1／6　冬期休業

〈聖泉短期大学準備室関係〉

10／13　大学設置審議会審査終了
※教学関係
私立大学審議会審査終了
23
※財務・管理関係

〈教職員人事〉

◎就職
9／1　鈴木鈴松（高校）　保健体育
10／1　若澤文香（助産婦専攻科）　母子研究室
11／1　小森やえ子（衛生短大）　保健体育
◎昇格
10／1　生座本磯美（衛生短大）　助手B
〃　原田千代子

昭和60年度生募集

【聖隷学園浜松衛生短期大学】

真理におののき愛に生きる看護婦（士）
助産婦の教育をめざす

❖第一衛生看護学科（3年制）100名，男女共学
受験資格：高等学校卒業（見込）

❖第二衛生看護学科（2年制）100名，男女共学
受験資格：高等学校卒業（見込）
准看免許取得者（見込）

	推薦試験	一般入学試験
願書受付	昭和59年 10月29日(月)～11月27日(火)	昭和60年 2月1日(金)～2月26日(木)
試験日	12月6日(木)	3月7日(木)
合格発表	12月15日(土)正午	3月16日(土)正午
第Ⅰ科（3年制）試験科目	1. 作文 2. 数学Ⅰ 3. 面接	1. 作文 必修 2. 数学Ⅰ 必修 3. 国語Ⅰ 必修 4. 生物・化学・物理 Ⅰ科目選択 5. 面接 必修
第2科（2年制）試験科目	1. 作文 2. 数学Ⅰ 3. 面接	1. 作文 必修 2. 数学Ⅰ 必修 3. 国語Ⅰ 必修 4. 基礎看護医学（看護一般） 必修 5. 面接 必修

❖専攻科（助産学特別専攻）（1年制）
志願資格：短期大学の看護関係学科卒業（見込）15名，女子のみ

	一次募集	二次募集
願書受付	昭和60年 1月11日(金)～1月30日(水)	昭和60年 2月1日(金)～2月28日(木)
試験日	2月6日(水)	3月7日(木)
合格発表	2月15日(金)正午	3月16日(土)正午
試験科目	小論文 母性看護学（含婦人科疾患） 小児看護学 面接	

【福祉医療ヘルパー学園】

よきヘルパーとして隣人と共に生きる人材の育成を目的とする。

＊春季コース（昭和60年4月～9月）
募集定員20名　男女共学
入学資格：高等学校卒業（見込）その他，学歴，年令，性別にかかわらず，学園長が適当と認めたもの

	春季コース・入学試験
願書受付期間	2月12日(火)～3月13日(水)
試験日	3月18日(月)
試験科目	1. 作文 2. 面接
合格発表	3月19日(火)

【聖隷学園高等学校】

※募集人員　普通科270名　男女共学

願書受付	昭和60年2月8日(金)～2月14日(木)
試験科目	国語・数学・英語
試験日	2月19日(火)
面接試験	2月19日(火)・20日(水)
合格発表	2月23日(土)正午

【聖隷学園聖泉短期大学】

（昭和60年4月開学予定）

◇英語科　100名　男女共学
◇商経科　100名　男女共学

	推薦試験	一般入学試験
願書受付	昭和60年1月4日(金)～昭和60年1月19日(土)	昭和60年2月1日(金)～2月20日(水)
試験日	1月20日(日)	2月22日(金)
試験科目	小論文 面接	国語Ⅰ　英語Ⅰ・Ⅱ (商経科専願者は簿記Ⅰで英語に代えられる。) 小論文　面接
合格発表	1月26日(土)	2月25日(月)